Proceedings of the Ja Sakai Annual Conference
Vol.2012 No.4 2012/3/9

名古屋大学における Sakai の利用促進活動報告

Activity report for use promotion using Sakai in Nagoya University

太田芳博[*1]，中務孝広[*1]，田上奈緒[*1]，原愛樹[*2]
大平茂輝[*2]，後藤明史[*2]，梶田将司[*3]，森健策[*4]
*1 名古屋大学全学技術センター，*2 名古屋大学情報基盤センター，
*3 京都大学情報環境機構 IT 企画室，*4 名古屋大学情報連携統括本部情報戦略室

あらまし：名古屋大学では 2010 年度から，教育学習支援システムとして Sakai を採用し，全学的に運用を行っている．本稿では，名古屋大学における Sakai（NUCT;Nagoya University Collaboration and course Tools）の利用促進に向けた普及プロジェクトについて，これまでの活動を述べるとともに，講義での利用，および全学向け学習教材の利用について紹介する．

キーワード：オープンソース CMS，Sakai，NUCT，利用促進

1. はじめに

名古屋大学では従来，コース管理システムとして WebCT の運用・サービスを提供してきたが，2010 年度からは新たな教育学習支援システムとして Sakai を用いた Nagoya University Collaboration and course Tools (以下，NUCT) の全学運用を開始している．

しかし，NUCT 運用開始当初は，前システムである WebCT を利用していた教員による乗り換え利用がほとんどであった．この利用実態を踏まえて，名古屋大学情報連携統括本部では，NUCT のさらなる利用促進を目的として 2010 年 9 月に「NUCT 普及プロジェクト（以下，普及プロジェクト）」を発足させた．本稿では，この普及プロジェクトで行った NUCT の利用促進活動について報告する．また，名古屋大学内で NUCT を用いて実施された全学規模の研修についても併せて報告する．

2. 普及プロジェクトの利用促進活動

前述のように,普及プロジェクトは 2010 年 9 月から活動を開始しており，2010 年度内における活動内容（「利用アンケートの実施及びそれに対するシステムの改善」「名古屋大学ポータルとの連携機能の追加」「事例集の作成」）に関しては第 4 回 Ja Sakai カンファレンスにおいて報告済みである[1]．しかし，普及プロジェクトは 2011 年度も継続されることとなり，さらなる利用促進活動を行うことになった．2011 年度の普及プロジェクトの目標は，1）利用コース数のさらなる増加（前年比倍），2）サイト内で利用される各ツールの利用率の向上が掲げられた．以下に，これらの目標を達成すべく，2011 年度の普及プロジェクトで行った活動について述べる．

2.1 システムの改善

2010 年度に実施した利用者アンケートで寄せられていた要望として，1）授業で一斉に利用したときの応答速度の改善，2）利用できる機能（ツール）の追加があげられていた．そのため，2011 年度の開始に合わせて，以下の対応を行った．

1）については，いくつかのシステム構成変更を行うことで処理速度の向上を図った．実際に行ったシステムの変更点を表 1 に示す．物理サーバを高速な機種に変更し，さらに Apache httpd と Tomcat に関して一部設定の見直しを行うなど，ハードウェア／ソフトウェア両面において対応を行った．また同時に，Sakai 本体は Sakai-2.7.1 へのバージョンアップを実施した．

2011 年度は，学内の複数端末室に分散した講義が開講されたため，同時アクセスによる処理速度の低下が考えられたが，現在のところ，利用者から講義時間内における速度面での不満は報告されていない．

表 1　NUCT の 2010 年と 2011 年度における主な変更点

	2010年度	2011年度
サーバハードウェア	SunBlade T6320	IBM BladeCenter HS21
ロードバランサ	Alteon Application Switch 2424-SSL	Fujitsu IPCOM EX2000-SSL
Apache httpd MPM	prefork	worker
tomcat ヒープメモリ	2GB	5GB
Sakai バージョン	2.7.0 beta	2.7.1 Release

2）については，2010 年度の運用開始時に十分な動作確認ができなかったために公開しなかったツールの提供を開始した．具体的には，SiteStats（サイト利用統計），Forum（フォーラム），Polls(匿名アンケート)を公開した．さらに，利用者からの問い合わせが多かったメール機能を有効にした．

2.2 マニュアルの整備と事例集の作成

Sakai には多くの機能や設定があるが，各ツールに関しての日本語利用マニュアルは付属していない．そのため，初めて NUCT を利用するユーザは操作に戸惑いを感じるケースや，利用方法がわからないために利用意欲をなくしてしまうケースがあると思われた．そこでまず，前年度までに作成していた利用者向けマニュアルの再整備を進めることにした．マニュアルは，主にツールの操作手順を示した学生版と，主にワークサイトの利用を解説した教員版を作成し，それぞれについて Web ページと PDF ファイ

ルを用意した（図 1）．これらのマニュアルはすべて，NUCT 上で公開されており，参照及びダウンロードが可能である．

また，前年度に作成した活用事例集[1]に関しても，利用可能なツールの追加やツール名の一部変更に伴う改訂作業を行い，印刷版と Web 版の 2 種類を作成した．印刷版に関しては学部事務経由で常勤教員に配布を行い，利用促進活動の一環とした．活用事例集については，現在も 2012 年度に向けての改訂作業を行っている．

図 1　学生向けマニュアル（PDF 版）

2.3　利用講習会・ユーザ会の実施

整備した利用者向けマニュアル，活用事例集を教材として，実習形式による教員向け利用講習会を開催した．本講習会の受講後に NUCT を授業開講当初から使用してもらうことを想定し，4 月と 9 月に実施した（4 月開催の講習会については 2010 年度内に整備したマニュアルを利用した）．利用講習会の参加者は 5 日間で述べ 18 名であり，決して多くはなかったが，マンツーマンに近い形での講習会が開催できた．

講習会の終了後，参加者には(1)本講習会の理解度，(2)講義との関連について，(3)今後の利用について，(4)本講習会の満足度について回答してもらった（回答者数 17 名）．講習会の理解度についてのアンケート結果を図 2 に示す．8 割以上の受講者が「理解できた」と回答しており，講習会の資料として使用した教員向けのマニュアルの内容は NUCT を初めて操作する教員にとって適切なレベルであると思われる．

また，アンケートの自由記述欄において，「実際に利用している教員の声を聞く機会がほしい」「具体例となる使用方法の紹介が欲しい」という意見が寄せられた．そこで，既に NUCT を利用している教員及び利用を考えている教員同士の交流の場を設ける目的で後日，NUCT ユーザ会を開催した．ユーザ会の内容としては，実際に講義・演習で NUCT を使用している教員を講師として招き，具体的な活用例として「課題」ツールについて紹介してもらうと共に，参加者と講師，及び普及プロジェクトメンバーの 3 者間での意見交換を行った．

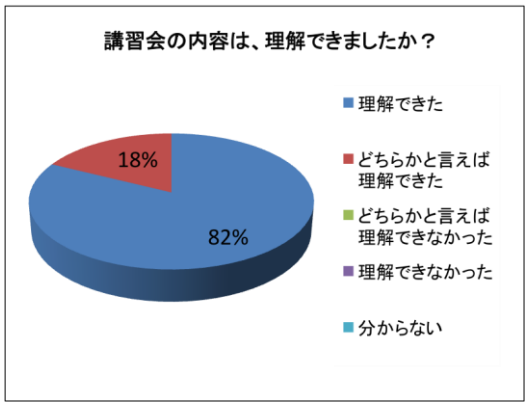

図 2　講習会の理解度についてのアンケート結果

2.4　利用状況

これまでに述べた普及プロジェクト活動の結果を測る指標として簡単なワークサイト分析を行った．図 3 に昨年度および今年度の講義ワークサイト登録数の推移を示す．

昨年度作成した講義ワークサイト数は 104 件であったが，今年度は 265 件となっており，約 2.5 倍に増えている．また，講義ワークサイトの学部別内訳では，学内に存在する全学部で NUCT が利用されていることがわかった（図 4）．

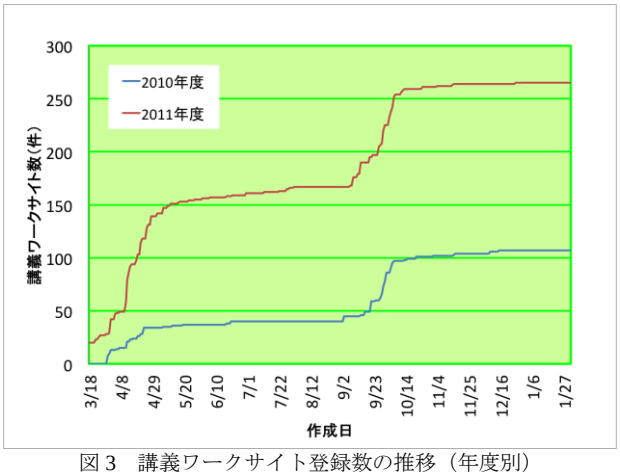

図 3　講義ワークサイト登録数の推移（年度別）

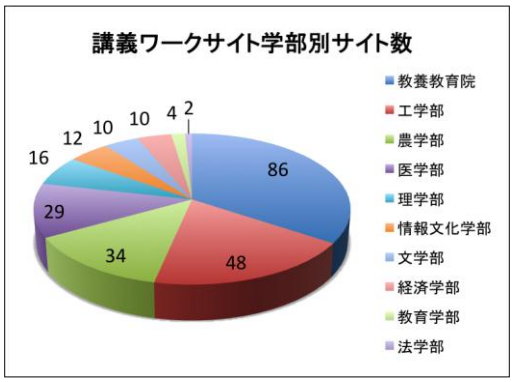

図 4　講義ワークサイトの学部別割合

3. NUCT を利用した全学研修について

今まで述べた通常の講義ワークサイトとは別に，2011 年度においては以下にあげる 2 つの全学的な研修が NUCT を用いて実施された．

1）情報セキュリティ研修（情報連携統括本部）

「名古屋大学情報セキュリティポリシー」および「名古屋大学情報セキュリティガイドライン」に基づき実施される研修であり，情報メディア教育システムの新規利用者である学部・大学院新入生および新研究生を対象に実施された．2011 年度の対象者数は 5,249 名であった．

2）公的資金の使用に係る e-Learning 研修（研究推進室）

公的研究費の使用に関する理解を深め，研究費等の適切な使用を徹底するため，公的研究費の申請が可能な構成員を対象に実施される研修であり，2011 年度の対象者は 5,186 名であった．

このように NUCT を用いて全学的な研修を行うことは，普及プロジェクトとしては NUCT の認知度が上がるという点，大学全体としては研修システムの統合化の点で大きなメリットとなり得るが，実際に運用を行ってみたところ，研修担当者からは以下のような不満点や問題点が報告された．

(1)外観の問題：ロゴなどの外観やツール内の説明文が講義を想定したものになってしまうことに加えて，通常の講義ワークサイトに混じって研修サイトのタブが表示されることで，ログイン直後は受講者によって表示される画面が異なる．研修担当者の立場としては，研修用マニュアルの画一化が難しいなどの問題がある．

(2)サイト設計・運用の問題：運用の見通しをよくするため，1 つの研修用サイトに多くの参加者を登録した場合，処理によっては時間がかかりすぎて結果が表示されない場合があった．そのため，受講者を複数のサイトに分けることにしたが，参加者の振り分けおよびサイトへの登録をサイト別に行う必要があり，その後もサイトの管理が煩雑になってしまうといった不満が寄せられた．

そのため，2012 年度の「公的資金の使用に係る e-Learning 研修」に関しては，(1)の問題の解決策として，外観を研修専用に変更した Sakai を別サーバで稼動させて研修の実施を行う予定である．また，(2)の問題に関しては，大人数をひとまとめとするような利用方法については運用でカバーせざるを得ない部分も多い事がわかったが，現在までに根本的な解決方法は見いだせていない．

4. まとめ

本報告では，本学における 2011 年度の普及プロジェクトの活動内容及び NUCT を利用した研修の実施とその問題点について述べた．本年度のプロジェクト目標の一つであった「利用コース数のさらなる増加（前年比倍）」については達成することができたが，もう一つの目標であった「サイト内で利用される各ツールの利用率の向上」に関しては，ほとんど手つかずの状態である．目標実現には普及プロジェクト側で各サイトの利用状況を調査し，NUCT を使っている教員に対し，新たな利用方法の提案を行う等の対応が求められると考える．

なお，普及プロジェクトはさらに 1 年間の継続が決定しており，2012 年度の新たな課題目標としては，1）運用に関する業務引継手順の確立，2）さらなる利用促進のための新たなプロモーション活動（利用表彰制度の実施など）が挙げられている．

参考文献

(1) 太田 芳博, 中務 孝広, 田上 奈緒, 原 愛樹, 大平 茂輝, 後藤 明史, 梶田将司, 森 健策, “名古屋大学における Sakai の全学運用と利用推進に向けた活動報告”, 第 4 回 Ja Sakai カンファレンス, 2011, http://bugs.ja-sakai.org/confluence/download/attachments/5308418/JaSakaiConf4_Ohta.pdf?version=1

(2) 常盤 祐司, “Sakai を基盤とした全学教育システム構築”, 第 4 回 Ja Sakai カンファレンス, 2011, http://bugs.ja-sakai.org/confluence/download/attachments/5308418/JaSakaiConf4_Tokiwa.pdf?version=1

(3) 太田 芳博, 田上 奈緒, 中務 孝広, 梶田 将司, 間瀬 健二, “名古屋大学における Sakai の全学運用とその課題”, 情報処理学会, 研究報告 Vol.2010-CLE-1 No.1, 2010

(4) 田上 奈緒, 太田 芳博, 梶田 将司, 中務 孝広, 間瀬 健二, ” IMS ラーニングインフォメーションサービスによる教務システム・Sakai 間の連携”, 情報処理学会, 研究報告 Vol.2010-CLE-1 No.1, 2010

(5) 中務 孝広, 太田 芳博, 田上 奈緒, 梶田 将司, 森 健策, 間瀬 健二, ”名古屋大学における新教育学習支援システム NUCT の導入と全学向け学習教材の運用”, 平成 22 年度情報教育研究集会, 2010